

軸となる取組・活動①

学習①（教科科・領域等における活動）＜翔鸞小・金閣小・衣笠小・柏野小並びに衣笠中 共通の取組＞

義務教育卒業時につけたい力										
・人と共に社会を生きる力 ・自分を知り律する力 ・課題を見つけ、解決する力 ・夢や希望をつくりあげる力 ・社会に貢献する力										
段階	1 s t ステージ【1・2・3・4年】				2 n d ステージ【5・6年・中一（5・6・7年）】			3 r d ステージ【中二・中三（8・9年）】		
の ス テ ー ジ で 観 点	・学習規律の確立，学び方や学習方法の習得，基礎基本の定着 ・学校生活に主眼をおいた生活習慣の確立，集団生活におけるルール遵守 ・多様な遊びの体験化，昔の遊びにおける地域との連携				・主体的な学び，他校種間との交流，自分自身に応じた進度の取組 ・リーダーとして周囲に対しての目配りや気配り・心配りの実践 ・心と体の学習の充実，様々な運動に挑戦する姿，成長にあった食生活の充実			・進路の向こうにある自分の姿を考え，判断し，行動する ・社会の中の一員として，社会に貢献できる自分の可能性を広げる ・習慣化した運動の取組，健康に対して自己管理能力を高める		
学 習 ① に お け る 主 な ね ら い	・自分の考えをもち，事柄の順序を考えながら話す能力，大事なことを落とさないように聞く能力，話題に沿って話し合う能力を身につけ，進んで話したり聞いたりできる。 ・友だちの考えと比べながら，筋道を立てて話す能力，話の中心に気をつけて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身につける。 ・興味や関心をもった学習や事柄について，主体的に調べたり，発表したりすることができる。 ・自分や仲間の身の回りに起こっている問題などについて問題意識をもち，話し合いを通して解決していくことができる。 ・育成学級の子どもたちと積極的に交流し，互いに友だちであることを認めることができる。				・自分の考えをまとめ，考えたことや伝えたいことなどについて，的確に話す能力や計画的に話し合う能力を身に付けるとともに，適切に話したり聞いたりできる。 ・友だちの考えと比べながら，筋道を立てて話す能力，話の中心に気をつけて聞く能力，進行に沿って話し合う能力を身に付けるとともに，工夫をしながら話したり聞いたりできる。 ・興味や関心をもった学習や事柄について，主体的に様々な方法で調べ続けたり，工夫してまとめたりして発表することができる。 ・自分や仲間の身の回りに起こった問題や社会で起きている問題などについて，話し合いを通して具体的な解決方法を見出して解決していくことができる。 ・育成学級の子どもたちと積極的に交流し，互いに友だちであることを認めることができるとともに，目配り・気配りができるようにする。			・様々な出来事に対して問題意識をもち，問題について話し合い活動等を通して問題の核心部分を見出すとともにその解決に向けてよりよい方法を考え，解決に向けて実践することができる。 ・学び合い学習を通して，学んだ場以外にもち出せ，必要なときに使える作り替え維持できる力，「活用能力」を身につけ，実践できるようにする。 ・興味や関心をもった学習や事柄について積極的に調査・研究するとともに，調査等の結果を論文としてまとめることができる。		
	（教師側）・校内研修体制の再構築と活性化を図るため，校内研修をワークショップ型とし，教職員自らがアクティブラーニングを体験する。									
学年	1 年		2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年（中一）	8 年（中二）	9 年（中三）
教 科 ・ 領 域 等 の 指 導	○「主体的に学び，共に高め合う子」をめざし，「言語活動」「協働活動」「個別支援の充実」を中核に据えた授業改善，学習方法の確立に取り組む。 ・問題解決的な学習，探究的，協働的に学び合う授業を学習展開する。 ・積極的に話し合い活動を取り入れ，質の高い学習集団をつくり上げる。 ・各教科の基礎・基本の定着や知識の活用を図り，成長に応じた技能を習得できるようにする。 ・児童・生徒自らが主体的に学ぶために，学級だけでなく校内の学習環境全体を整備する。 ○道徳の授業を充実したものにするため，現在使用の資料の他，世の中の課題から小中の児童・生徒が意見交流して，課題解決に向く取組を行う。 ・児童会や生徒会と連携して，課題解決に向けた取組について全校的なアピールを実施できるようにする。 ○自分自身で健康や安全管理を行う実践力を身に付けるとともに，体力の向上に向けた取組を行う等，自己管理能力を高める。 ・食に関する指導や安全指導，保健指導を通して，自分自身の健康について考え，安全で健康な生活を送る。 ・体育の授業だけでなく，日ごろから外遊び等を通して体力の向上を目指す。					・一人一課題をもち，それについて調査や研究を続けて行い，結果などについて文章（論文）としてまとめるとともに，様々な表現方法から持論に応じて選択して発表する。			・教科横断的視点をもった授業を全教科で実施する。 ・政治的教養を育む教育の研究をする。	
	○育成学級の児童生徒には，生活単元学習を柱に子どもが主体的に学ぶ授業を行い，主に，問題を見つけ解決する力，他の考えを取り入れ，意思表示する力，よりよい社会やつながりをつくろうとする力の育成を目指す。								・自身の生活習慣を見直し，課題を見つけ，どのようによりよい生活を送るか考え，適切な手段をもって実践する。 ・正しい「性」の知識をもち，男女互いが尊敬できる人間関係を構築できるようにする。	
【中学ブロック】 ・全国学力実態調査やジョイントプログラムの結果を分析し，個々の学力や学習実態を把握すると共に，小小・小中が情報交流して9年間を見通した指導の在り方を検討，改善し続ける。 ・個別の指導計画をもとに，個に応じた指導を計画し実践するとともに，小中でのスムーズな指導の移行を図る。 ・必要に応じて教科の専門性を生かした人事の交流を行う。										

軸となる取組・活動②

学習②（生活科・総合的な学習等）における活動 ＜翔鸞小・金閣小・衣笠小・柏野小並びに衣笠中 共通の取組＞

義務教育卒業時につけたい力									
・人と共に社会を生きる力 ・自分を知り律する力 ・課題を見つけ、解決する力 ・夢や希望をつくりあげる力 ・社会に貢献する力									
段階	1 s t ステージ【1・2・3・4年】				2 n d ステージ【5・6年・中一（5・6・7年）】			3 r d ステージ【中二・中三（8・9年）】	
の ス テ ー ジ で の 主 な 観 点	・学習規律の確立，学び方や学習方法の習得，基礎基本の定着 ・学校生活に主眼をおいた生活習慣の確立，集団生活におけるルール遵守 ・多様な遊びの体験化，昔の遊びにおける地域との連携				・主体的な学び，他校種間との交流，自分自身に応じた進度の取組 ・リーダーとして周囲に対しての目配りや気配り・心配りの実践 ・心と体の学習の充実，様々な運動に挑戦する姿，成長にあった食生活の充実			・進路の向こうにある自分の姿の思考と選択（判断），実践 ・社会の中の一員として，社会に貢献できる自分の可能性の汎用 ・習慣化した運動の取組，健康に対して自己管理能力の向上	
学 習 ② に お け る 主 な ね ら い	・地域を探索活動を通して，地域のよさを見つけようとしている。 ・地域を探索活動の中から自分の課題を選ぶことができる。 ・見学やインタビューしたことの中から，課題をもつための必要な情報を得ることができる。 ・地域についてわかったことをまとめ，交流し合うとともに，新たな課題をもつことができる。 ・植物の栽培方法を知り，大切に育てようとしている。 ・情報モラルについて知る。				・テーマについて進んで調べたり，見学したりしようとしている。 ・大まかな活動計画を立て，目的に応じて調べたり見学したりするなど，見通しをもって活動することができる。 ・問題を解決するために，目的に応じて資料や見学，インタビュー，インターネットなどから情報を得ることができる。 ・調べたことやわかったことを積極的に交流し，共通の課題を見つけ，具体的な解決方法を考えることができる。 ・追究・体験したことを生かして，自分ができるところを考え，実践することができる。 ・調べたことを外国の人々にも伝えて交流し，より理解を深めることができる。 ・情報モラルが守られていない場合についてどのような事態が起こるか，具体的な事例に基づいて知る。			・自分たちの活動を適切な方法でまとめ，自分にできることを考え，実践することができる。 ・地域のよさを知らせることを通して，自ら地域に関わろうとする。 ・地域のよさについて調べたことや取り組んできたことをわかりやすい方法で伝えることができる。 ・課題に合った表現方法を選び，思いや考えを伝え合い，自分の思いや考えを深めることができる。 ・調べたことを外国の人々にも伝えて交流し，自国と他国との相違点を探り，新たな課題づくりができる。 ・情報モラルが守られていない場合についてどのような事態が起こるか，具体的な事例に基づいて知る。	
	（教師側）一人一人の児童・生徒の課題解決に向けて，調査や体験活動について，児童・生徒のニーズに応えられるような指導者側の体制づくりを行う。								
学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年（中一）	8 年（中二）	9 年（中三）
学 習 （ 生 活 科 ・ 総 合 的 な 学 習 ）	「がっこうたんけん」 ・大すきいっぱいわたしのまち ・仲よしいっぱい大作戦	「まちたんけん」 ・校区の「すてき」を見つけよう ・地域の達人を発見しよう	「ちいきたんけん」 ・校区の「ピカイチさん」を見つけよう ・京都のみ力発見!	「環境エコプロジェクト」 ・様々な環境問題について考え住みよい町にしていこう	「スチューデントシティーに行こう」 ・「働く魅力」を探そう ・働くことの大切さを体感しよう	「京都の歴史探訪」 ・京都の歴史・文化を探ろう ・英語インタビューをしよう	「ファインナンスパークで働こう」 ・職業体験につなげよう ・社会の一員として働くことの意義を確かめよう	「生き方探究チャレンジ体験」 ・地域の事業所での職場体験を通して，自分の適性や将来の仕事について考え，体験談を報告し自分自身の生き方の課題を見つけよう	「自己の未来」(高校・大学訪問) ・「生き方」について他者と話し合い活動を通して，自己の未来について考えを深め，社会的・職業的自立をめざそう
	「生きものはっ見」 ・大きくなれわたしの花	「そだてやさい!」 ・野菜を育てみんなで食べよう	「育てよう食べよう」 ・食べ物を大切にみんなで協力して育てよう	「やさしい町づくり」 ・ともに生きる（お年寄りと交流）	「福祉プロジェクト」 ・福祉施設見学をして交流しよう	「食」 ・地域に根付く伝統的な『食』を考えよう	「地域の魅力 再発見!」 ・地域の伝統や文化を探究して，新しい地域の魅力を発信し，新しい文化を創造しよう		
	・地域に目を向けることにより，自分の周りの人々のよさや身近な自然に気付くようにする。 ・一人一人がそれぞれが探究したことを交流する共同的な学びを通して，気付きの質を高める。 ・交流等を通して，発表者の成果等からさらなる意欲的な探求活動の実践に結び付け，主体的な学習態度を育むことを目指す。								
	【中学ブロック】 「報告会をしよう」調査・探究して判明したことなどについて幅広く交流する。								

軸となる取組・活動③

学習③（学習①・②を支える学びの約束・ルール）＜翔鸞小・金閣小・衣笠小・柏野小並びに衣笠中 共通の取組＞

義務教育卒業時につけたい力																		
・人と共に社会を生きる力 ・自分を知り律する力 ・課題を見つけ、解決する力 ・夢や希望をつくりあげる力 ・社会に貢献する力																		
段階	1 s t ステージ【1・2・3・4年】				2 n d ステージ【5・6年・中一（5・6・7年）】			3 r d ステージ【中二・中三（8・9年）】										
の ス テ ー ジ で の 主 な 観 点	・学習規律の確立，学び方や学習方法の習得，基礎基本の定着 ・学校生活に主眼をおいた生活習慣の確立，集団生活におけるルール遵守 ・多様な遊びの体験化，昔の遊びにおける地域との連携				・主体的な学び，他校種間との交流，自分自身に応じた進度の取組 ・リーダーとして周囲に対しての目配りや気配り・心配りの実践 ・心と体の学習の充実，様々な運動に挑戦する姿，成長にあった食生活の充実			・進路の向こうにある自分の姿の思考と選択（判断），実践 ・社会の中の一員として，社会に貢献できる自分の可能性の汎用 ・習慣化した運動の取組，健康に対して自己管理能力の向上										
学 習 ② に お け る 主 な ね ら い	・人権を基盤とした学級経営の下（相手を「さん」付けで呼ぶことなど），相手意識をもち，話すこと・聞くことの正しい態度を身につける。 ・基本的な話型を活用して発言の仕方等を学ぶとともに，相手の話について，自分の意見を付け足したり，質問したりすることができる。 ・正しい鉛筆の持ち方で，筆記できるようにする。 ・授業でのノートの書き方や使い方を身につけるとともに，文字を丁寧に書くようにする。 ・登下校を中心に地域の方に積極的に挨拶を行う。				・授業を通して，どの児童も課題解決に向けて自ら追究したことを伝え合い，仲間と共に課題解決するよさを体感する。 ・友だちや仲間に対して，呼び捨てやあだ名で呼ぶことなく，「さん」付けを通して，相手への人権意識を高める。 ・学習に応じてノートの取り方を工夫し，必要な時に既習のページに戻って見るなど，ノートを活用することができる。 ・話し手の内容について，必要な事項についてメモを取ることができる。また，メモをもとに自分の思いや考えを合わせて話すことができる。 ・小学校最高学年として，中学校生活について，見通しをもつために，積極的に中学生と交流しようとしている。 ・登下校を中心に地域の方に積極的に挨拶を行う。			・自ら将来展望を行い，実現達成に向けて必要な手立てを考え実践する。 ・地域性を鑑み，地元住民と触れ合うだけでなく外国の人々とも触れ合うことも想定し，英語力を高めるとともに地域の伝統文化について語れるようにする。 ・必要な事項についてメモを取ることができる。また，メモをもとに自分の思いや考えを合わせて話すことができる。 ・自ら挨拶をしたり場に応じた言葉遣いをしたりするなど，社会性を高めていく。 ・将来の生き方を考え自己実現のための生活設計を考えようとしている。										
	（教師側）・授業工夫・改善を通して，どの児童・生徒も興味関心を持続しながら学習する楽しさを体感できるようにする。																	
学年	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		7 年（中一）		8 年（中二）		9 年（中三）	
・ 話 し 方 ・ 聞 き 方	・話し手は，全員に聞こえる声で聞き手の方を見て話す。 ・聞き手は，話し手のほうを見て聞いたりうなずいたりして聞く。 ・自分の考えの根拠や友達の考えと比べた考えをつなぎながら話す。 ・話し方の基本型（話型）を掲示，実行する。								・目的や意図をはっきりさせてわかりやすく話す。 ・互いに相手意識をもった聞き方や話し方をする。 ・必要に応じてメモを取りながら聞く。 ・プレゼンテーション等を使うなど，場や目的に応じた表現方法で話をする。 ・（英語）伝えたいことを体も使って表現する。						・授業や委員会等で話し合いが始まれば司会者を立て，話し合いの基本的なルールを遵守するとともに，力関係にとらわれず，論拠をしっかりと述べたり聞いたりして質の高い話し合いがもてるようにする。			
づ く り ノ ー ト	・マス目からはみ出さないように，正しく丁寧な字を書く。 ・行を変えて見やすく書く。				・マス目や行をほどよくあけて，見やすく書く。 ・大事なところは線を引いたり囲んだり工夫する。				・学習内容や大事な事柄が見やすいノートを作る。 ・先生や友達の言ったこと，自分の考え，学習のポイントなどを付け加える等，見やすくわかりやすくする。						・教科や授業のスタイルに応じたノートの使い方を考える。 ・「世界に1冊しかない手作りの参考書」（サブノート）となるノートを作る（ノートの評価基準を明確に示し「ノート検定」の実施）。			
葉 遣 い 適 切 な あ い さ つ ・ 言	・大きな声であいさつや返事をする。（児童会・生徒会との連携） ・正しいあいさつや返事の仕方を理解する。 （自分から進んで，目を見て，相手に聞こえるように，笑顔で） ・登校時や下校時などで地域の方と出会ったら進んであいさつをする。								・相手を意識したあいさつや言葉遣いをする。 ・自ら進んであいさつをし，低学年・小学生の手本となるようにする。 ・相手や場に応じた言葉遣いをする。 （敬語を理解し，正しく使えるようにする。）						・積極的に他者に関わる姿勢を育むために，笑顔で目を見てあいさつをする。 ・TPO をわきまえた言葉遣いや所作を行う。 ・日本の伝統的な所作が行えるようにする。 ・外国の文化を知り，挨拶の仕方や禁止行為について学び，実際に使えるようにする。			
【中学ブロック】活用する場「あいさつ運動」○児童会・生徒会合同事業7月，1月に各校で実施 「人権宣言」○児童会・生徒会合同事業12月に各校で実施 「清掃活動」○児童会・生徒会合同，PTA合同事業日程未定																		

＜翔鸞小・金閣小・衣笠小・柏野小並びに衣笠中 共通の取組＞

義務教育卒業時につけたい力 ・人と共に社会を生きる力 ・自分を知り律する力 ・課題を見つけ、解決する力 ・夢や希望をつくりあげる力 ・社会に貢献する力									
段階	1 s t ステージ【1・2・3・4年】				2 n d ステージ【5・6年・中一（5・6・7年）】			3 r d ステージ【中二・中三（8・9年）】	
の ス テ ー ジ で の 主 な 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律の確立，学び方や学習方法の習得，基礎基本の定着 ・学校生活に主眼をおいた生活習慣の確立，集団生活におけるルール遵守 ・多様な遊びの体験化，昔の遊びにおける地域との連携 				<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学び，他校種間との交流，自分自身に応じた進度の取組 ・リーダーとして周囲に対しての目配りや気配り・心配りの実践 ・心と体の学習の充実，様々な運動に挑戦する姿，成長にあった食生活の充実 			<ul style="list-style-type: none"> ・進路の向こうにある自分の姿の思考と選択（判断），実践 ・社会の中の一員として，社会に貢献できる自分の可能性の汎用 ・習慣化した運動の取組，健康に対して自己管理能力の向上 	
取組の 主 な ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい学級生活をつくるために友達の意見をよく聞いたり自分の意見を言えるようにしたりして話し合い集団決定をすることができる。 ・自分の役割を果たし，友達と助け合って活動できる。 ・簡単な役割や準備を分担し，誰とでも仲良く集会活動を楽しむことができる。 ・楽しい学級生活をつくるために，折り合いをつけて集団決定ができるようにする。 ・楽しく豊かな学級や学校生活をつくるために多様な意見の良さを生かしてよりよい集団決定ができるようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫が生かせるような係活動を組織し，協力し合うことができる。 ・計画や運営，準備などにおける役割をより多くの児童が分担し，協力し合って楽しい集会活動をつくることができる。 ・学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち，他の児童と協力して，自主的に集団活動に取り組みよりよい人間関係を気付こうとする。 ・諸問題を解決する方法などについて考え，判断し，協同して実践できる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい人間関係を形成し，集団や社会の一員としてより良い学校づくりに参画し，協力して諸問題を解決しようとする自主的・実践的な態度を身につける。 ・地域行事に意欲的に参加するとともに，地域の一員としての自覚をもって，準備や後片付けなどに積極的に参加することで地域の方々とのよりよい人間関係を築こうとする。 ・自校だけでなく，小学校も含めた視野をもち，見通しをもった活動計画をたて，自治的実践的に活動できるようにする。 	
	（教師側）・擬態について討議する際，わかりやすい言葉で伝わるように児童・生徒の代表が留意できるようにする。 ・合同事業については，「あいさつ運動」・「人権宣言」・「清掃活動」など，どの児童・生徒も発達段階に応じて取り組める内容にする。								
学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	7 年（中一）	8 年（中二）	9 年（中三）
児 童 会 ・ 生 徒 会 活 動	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動（話し合い活動の在り方・係活動の決定の仕方） ・集会活動（集会活動での参加の仕方） </div>				<div> <ul style="list-style-type: none"> ・「1年生をむかえる会」，「6年生を送る会」等の企画，運営 </div>			<div> <ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会 ・生徒集会（月1回） ・対面式，生徒会オリエンテーションを実施する。（4月） ・生徒総会（6月） ・アクティブデイズ（7月） ・サンコン，生徒会サミット（8月） ・文化学習発表会（10月） ・オープンスクール，生徒会役員選挙（11月） ・アクティブデイズ（1月） ・3年生を送る会（3月） </div>	
	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・代表委員の選出と児童会の運営 ・クラブ活動の実施 ・委員会活動での課題解決に向けた取組 </div>				<div> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動（縦割り遠足，運動会縦割り種目，縦割り遊び等）における企画，運営等について </div>				
	<div> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動 「縦割り遠足」における参加の仕方，「運動会縦割り種目」におけるルール，「縦割り遊び」での参加の仕方を知る。 </div>				<div> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」の企画，運営についての話し合い ・「清掃活動」の企画，運営についての話し合い </div>			<div> <ul style="list-style-type: none"> ・「薬物乱用防止」の取り組み ・「スマホ」のルールづくり ・「人権宣言」の取組における企画，運営等についての話し合い いじめにつながるメール，自分をだめにする薬物，その禁止を訴える </div>	
<div> <p>【中学ブロック】 「あいさつ運動」 ○児童会・生徒会合同事業を7月，1月に各校で実施する。 ・各校のPTAも参加の共同事業とする。</p> <p>「4小1中 人権宣言」 ○児童会生徒会合同事業を12月に各校で実施する。 ・人権尊重街頭啓発活動に児童会，生徒会も参画する。</p> <p>「4小1中 清掃活動」 ○児童会・生徒会合同，PTA 合同事業として，地域清掃や行内清掃に従事する。</p> </div>									

家庭・地域との連携・協力に向けた取組

義務教育卒業時につけたい力 ・人と共に社会を生きる力 ・自分を知り律する力 ・課題を見つけ、解決する力 ・夢や希望をつくりあげる力 ・社会に貢献する力			
段階	1 s tステージ【1・2・3・4年】	2 n dステージ【5・6年・中一（5・6・7年）】	3 r dステージ【中二・中三（8・9年）】
の ス テ ー ジ で の 主 な 観 点	<ul style="list-style-type: none">・学習規律の確立，学び方や学習方法の習得，基礎基本の定着・学校生活に主眼をおいた生活習慣の確立，集団生活におけるルール遵守・多様な遊びの体験化，昔の遊びにおける地域との連携	<ul style="list-style-type: none">・主体的な学び，他校種間との交流，自分自身に応じた進度の取組・リーダーとして周囲に対しての目配りや気配り・心配りの実践・心と体の学習の充実，様々な運動に挑戦する姿，成長にあった食生活の充実	<ul style="list-style-type: none">・進路の向こうにある自分の姿の思考と選択（判断），実践・社会の中の一員として，社会に貢献できる自分の可能性の汎用・習慣化した運動の取組，健康に対して自己管理能力の向上
家庭・地域との連携・協力に向けた取組	<div><div>○学校だより，HP や保護者会，PTA，学校運営協議会，学校評議員会，地生連等の会議で4小1中での取組の周知を図るとともに協力の依頼等行う。</div><div><ul style="list-style-type: none">・家庭学習の在り方についても9年間を見通した家庭での学習の在り方を知らせる。・児童会，生徒会での取組について知らせるとともに，各学区の地域の諸団体にも支援を求める。</div><div>○中学ブロックの取組について幅広く意見を求め，改善点等，今後取り組んでいく見通しをもつ。</div><div><ul style="list-style-type: none">・学校評価アンケートで，共通項目を加える。</div><div>○学習活動や児童会生徒会活動についての連携を図る。</div><div><ul style="list-style-type: none">・P T A間での連携を図り，ネットワークを構築し，例えば必要な人材や必要な物資について情報を共有したり，P T A行事に各校参加できる体制づくりを行ったりする。・学区の垣根を越えた児童生徒の学習支援（ゲストティーチャー等）や生徒会の取組の支援を依頼できるようにする。</div><div>○長期休業期間中における学校・地域・P T Aにおけるパトロールを実施する。</div><div><ul style="list-style-type: none">・中学ブロック以外の地域も視野に入れて広域的にパトロールを実施する。</div></div>		
	<div>【中学ブロック】 「あいさつ運動」 ○児童会・生徒会合同事業を7月，1月に各校で実施する。</div> <div><ul style="list-style-type: none">・各校のP T Aも参加の共同事業とする。</div> <div>「4小1中 人権宣言」 ○児童会生徒会合同事業を12月に各校で実施する。</div> <div><ul style="list-style-type: none">・人権尊重街頭啓発活動に児童会，生徒会も参画する。</div> <div>「4小1中 清掃活動」 ○児童会・生徒会合同，PTA 合同事業として，地域清掃や行内清掃に従事する。</div>		